

令和 3 年度取り組み内容および達成状況（2021）

1 <中長期目標>

- ①「智・徳・体を修め社会に奉仕する」の建学の精神を再確認し、生徒一人ひとりに洗練された感性と豊かな心を身につけさせる。
- ②生徒一人ひとりの夢が実現できるよう、個々の能力を伸長させ、希望進路の実現を推進する。
- ③生徒・保護者や地域から愛され信頼される南大阪の代表的な学校とする。
- ④浪商高校創立 100 周年までに、浪商ブランドを確立する。
ブランド：泉州地域を代表する進学校 大阪を代表するスポーツエリート校

2 <重点目標>

- ☆スポーツと進学 of 2 本を柱にした学校の構築を目指すため、次の 2 点を重点目標とし、浪商ブランド確立の基礎とする。
- ①学習活動を充実させる。
 - ②部活動において成果を発揮する。
- ☆生徒の希望進路実現のため、次の点を重点目標とする。
- ③進学指導マネジメントシステムの構築
 - ④進学実績の成果向上
 - ⑤中高一貫体制の確立
- ☆生徒一人一人に豊かな心を身につけさせるため、次の点を重点目標とする。
- ⑥規律・規範の確立と自主性の伸長
 - ⑦人権教育・安全教育の充実

3 <目標達成状況>および<今後の課題と取り組み>

重点 目標	令和 3 年度 具体的な取り組み内容と達成状況	令和 4 年度 今後の課題と取り組み
① 学習活動の充実	・ ICT を活用した授業の研究と自主学習の習慣付けを定着させる取り組みをすすめた<A> ・ 新コースでは全コースの朝学の実施で学習に対する姿勢を育てた<A> ・ ipad を活用した主体的な学びを育む授業形態に取り組み、実施内容についても工夫できた<A> ・ 新コースの根幹となる探究活動についてコースごとのねらいや達成目標から 3 年間の系統的な学びの計画を前年度の実績から修正、補強するための整理を行った ・ 今年度も到達度テストなどの結果を分析し、指導の見直しや授業での対策を図った<A> ・ コースの特色などを丁寧に検討し教員間で共有しながら進めた ・ 観点別評価について研究、試行し次年度に実施できるように整備できた<A>	・ ICT の更なる活用と授業研究の推進 ・ 朝学の目的の共有と効果の検証、実施形態の工夫 ・ ipad の効果的な活用の研究 ・ 新コース進学目標達成のための現状の検証と改善 ・ 進級規定（追試の在り方など）の見直し ・ 観点別評価の検証と次年度への申し送り整理 ・ 進学アドバンス・進学スポーツコースの進路実現に向けた学習時間の確保について検討 ・ コース変更規定の見直し

② 部活動の成果	・運動部、文化部とも制限がある中、それぞれの目標達成のために精進し、多数のクラブが近畿大会、全国大会へと出場し、成果をおさめた＜S＞ ハンドボール部・女子バスケットボール部 女子バレーボール部・レスリング部 陸上部・水泳部・NSC(BMX、空手、カイトセーリング、キックボクシングなど) ・文化部の部員数確保に向けた生徒への働きかけ、募集時のアピールが不十分だったため、例年通りの部員数しか確保できなかった ＜C＞ ・同好会設立以外にも文化活動（書道や写真など生徒の要望を受けて）を推進、支援する取り組むを実施できなかった ＜D＞	・運動部、文化部の活発な活動と成果 ・各クラブ目標達成に向けた取組強化、連携、支援体制の更なる構築 ・文化部および文化的な活動の活性化 ・文化部部員を確保するための募集時のPR方法の検証と実行 ・SNS を利用した部活動の成績、取組み、魅力をタイムリーに発信
③ 進学マネジメント	・各コースの進路行事の設定や目標設定について学年と進路指導部が連携し共通理解を図った＜A＞ ・進路関連行事は学年と進路指導部が状況を把握して理解し合い協力して立案、運営を行った＜A＞ ・生徒、保護者への情報提供の場はコロナ禍もあり十分に確保できなかった ＜C＞ ・模試の結果資料の活用と分析を系統的に行った ＜A＞	・領域およびコースごとの進路説明会、進路関係の取組みと成果の検証 ・学年と進路指導部の連携による進路指導、進路行事の運営
④ 進学実績	・国公立大学 3 名以上 → 3 名 関関同立 15 名以上 → 12 名 産近甲龍レベル 34 名以上 → 50 名 摂神追桃レベル 40 → 52 名 医療系大学 → 27 名 大阪体育大学（内推枠） 58 名 → 35 名 （体育学部 26 名、教育学部 9 名）＜S＞ ・AO, 指定校及び内推のグループと推薦、一般で頑張る生徒の両輪で指導することで進路実績を上げた ＜S＞ ・提携校との連携を更に推進し、多数の生徒が進学した ＜S＞	・国公立大学 3 名以上 関関同立 10 名以上 産近甲龍レベル 40 名以上 摂神追桃レベル 50 名以上 医療系大学 20 名 大阪体育大学（内推枠） 58 名 （体育学部 43 名、教育学部 15 名） ・AO, 指定校及び内部推薦受験者への受験指導と成果 ・推薦入試、一般入試に挑戦する生徒の指導と成果 ・提携校、連携校との交流、協力を更に推進
⑤ 中高一貫体制の確立	・行事の準備、合同開催に向けた実施形態や内容を検討、工夫したが到達目標、目的の違いや人的、時間的な調整等が困難であった＜C＞ ・中高のコース再編に伴い、一貫のキャリアマネジメントを構築するまでにはいたらなかった＜C＞	・中高合同行事と別行事の運営と考え方 ・中高一貫のキャリアマネジメントの確立 ・中高一体となった募集行事への協力と連携

⑥ 規律規範の確立・自主性の伸長	・生徒の特性（コースごと）に合わせた指導体制で、生徒に考えさせる生徒指導を心がけた＜A＞ ・不公平感からくる不満の解消や風評（SNS書き込み）の誘発を防ぐために生徒への対応を丁寧に行った ＜A＞ ・生徒会で生徒アンケートを実施し要望や意見をまとめ、学校との話し合いを重ねて、主体的に規範意識を高めていく取り組みを実施した＜A＞ ・教員のSNS使用に関するガイドラインの検討はできなかった ＜D＞ ・お知らせツールとしてClassi、さくら連絡網などの整備とルール作りを行い円滑な情報提供を心掛けた ＜A＞ ・生徒会組織の再構築を図り、浪商祭を生徒主体の行事として取り組ませる目標であったが、コロナ禍で体育祭は中止、文化祭は文化発表会として自由参加にとどめた ＜C＞ ・委員会活動などを通して、学校での課題を自らで解決できるように働きかける目標は達成できなかった ＜D＞	・生徒会役員を中心に生徒と対話を重ねながら、主体的な学校生活を送るためのサポート、また校則などの見直しにも着手する ・コロナ禍の中でも様々な工夫を凝らし、コース行事、学年行事、学校全体行事を実施する ・浪商祭を生徒主体行事という意識で運営する ・文化祭実行委員会を発足し委員会で運営を図る
⑦ 人権教育・安全教育	・コロナ禍で出来ることを工夫して考え取り組んだ ＜A＞ ・相談室、保健室との連携を強化し、教員全体が生徒情報の共有と取り組みを行うことはできなかった ＜B＞	・相談室、保健室との連携を強化し、教員全体が生徒情報の共有と取り組みを行う ・HR, 総合的な探究の時間など3年間を通して系統的に学べるカリキュラムを確立する

※達成状況は次の5段階評価で示す

＜S＞よく達成できた ＜A＞まあまあ達成できた ＜B＞どちらとも言えない
 ＜C＞あまり達成できていない ＜D＞まったく達成できていない

令和3年度 大阪体育大学浪商高等学校の学校評価

日時 令和4年4月11日(月) 学校関係者評価
令和4年4月13日(水) 学校関係者評価
令和4年8月6日(土) 第三者評価

出席者 大阪体育大学 スポーツ教育学科 学科長 曾根 純也
大阪体育大学 健康スポーツマネジメント学科 学科長 富山 浩三
大阪体育大学浪商中学校・高等学校 元保護者会会長 小林 弘輝
大阪体育大学浪商中学校・高等学校 校長 工藤 哲士
大阪体育大学浪商中学校・高等学校 教頭 濱田 倫史
大阪体育大学浪商中学校・高等学校 教頭 松田 博志
大阪体育大学浪商中学校・高等学校 事務長 岸本 雅彦
大阪体育大学浪商中学校・高等学校 入試対策室室長 植村 大樹
大阪体育大学浪商中学校・高等学校 主幹教諭 福光 聖美
大阪体育大学浪商中学校・高等学校 主幹教諭 中村 祥子

【学校関係者評価】

1. 自己評価及び学校診断アンケートの結果報告

「令和3年度取り組み内容及び達成状況(2021)」 「項目別比較」 「コース別比較」 「学年別比較」 「共通項目別比較」、さらに生徒、保護者、教職員の「学校診断アンケート(コース別、学年別)」の資料やグラフに基づき詳細な説明を行った。

【第三者評価】

1. 学校関係者評価の報告

1) 目指す学校像は「中長期目標」に掲げる①「智・徳・体を修め社会に奉仕する」建学の精神を再確認し、生徒一人ひとりに豊かな心を身につけさせる ②個々の伸長及び夢や希望進路を実現 ③地域社会から信頼される学校 ④浪商ブランドの確立。上記①～④を具体的な「重点目標」に設定している。

2) 重点目標の設定は、進学とスポーツの2本柱として浪商ブランドを確立させることを基本として、①学習活動の充実、②部活動成果を第一義にあげている。次に生徒の希望進路実現のために、③進学マネジメントシステムの構築、④進学実績の向上、⑤中高一貫体制の確立を重点目標に設定している。また一人ひとりに豊かな心を身につけさせるために、⑥規律・規範の確立と自主性の伸長、⑦人権教育・安全教育の充実などをあげ、中長期目標に沿った具体的な重点目標の設定と取り組み

が行われていると評価できる。

3) 上記の重点目標①～⑦の具体的項目毎に、令和3年度の「具体的取り組み内容とその達成状況」を5段階(S、A～D)で学校関係者による評価が示されている。その学校関係者評価と対応して、令和3年度の「今後の課題と取り組み」も表記されている。また今年度の特徴(過去3年間との比較)、項目別比較、学年別比較、コース別比較、アンケート対象者別比較、様々な観点から検証を行うとともに項目別の検討課題を抽出し、具体的対策まで明確に示されている。

以上の観点から「令和3年度取り組み内容及び達成状況(2021)」の資料を統括して、貴校の学校評価への取り組みは適切なものであると評価できる。